

Topics

- NSRI ホームページに、「都市のバリューを考える会」の研究サイトを掲載しました。都市の「価値」について NSRI メンバーが研究しているテーマをコラムとして、隔週で掲載していきます。ぜひご愛読下さい。 <http://www.nikken-ri.com/index.html>
- 6月25日に開催する第18回 NSRI 都市・環境フォーラムは、古倉宗治氏(住信基礎研究所研究理事)によるご講演「自転車総合政策の最前線～今自転車利用の促進にとって何が必要か～」です。詳細は <http://www1k.mesh.ne.jp/toshikei/>まで。

サステナブルの先には何が見える？

現在、新型インフルエンザの流行が大きな問題となり私たちの生活に影響を及ぼしています。少しでも健康被害が少ないことを祈るばかりです。このようなウイルス感染ですが、気温上昇に弱い季節性ウイルスは温暖化によってその感染頻度が減っていくという報告もこれまでにあります。しかし、6月になっても感染の縮小傾向が明確にならない現状を見るに、温暖化の功罪はそう単純には分けられないようです。そこで、あらためて温暖化がもたらす現象について考えてみたいと思います。

地球温暖化によって何が起こるのでしょうか？南極や氷河の氷が溶けることによる海面水位の上昇、台風・サイクロン等の勢力拡大、ゲリラ豪雨の頻発化、エネルギー消費量の増大化、生物多様性への影響(絶滅種・危惧種の増加)人の健康被害、様々に言われています。一方、私たちにとって便益となりそうな点は、耕作可能面積の拡大による人口増への対応、冬期の暖房エネルギーの低減化・・・こちらもありそうです。

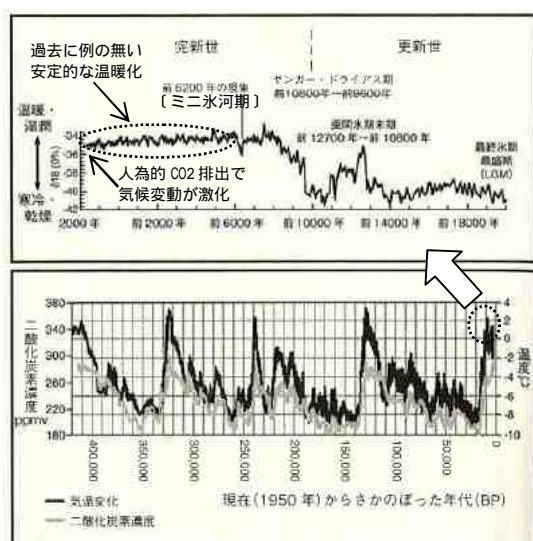
地球規模でひとしく気温が安定して上昇し続け、それに伴う多くの悪影響といった議論が進んでいます。しかしながら、IPCCは100年後の安定的な温暖化の姿を見せてくれますがその先どうなるかはまだ誰にもわかりません。

地球規模での温暖化の歴史をふりかえってみると、約13,000年前頃に急激な温暖化が始まり、人は居住域を大きく広げましたが、約8200年前から約400年間、急激な寒冷化(ミニ氷河期)が襲っています。これは、温暖化によって北米大陸の大氷河が大量に溶け出して暖かなメキシコ湾流や大西洋における流れの活動を止めてしまい、これに伴い冷えた空気が偏西風で欧州大陸から中央アジアに広く運ばれ乾燥・低温な気候となったとの調査結果が出ています。つまり「急激な温暖化」が「急激な寒冷化」を産み出しているのです。さらに皮肉なことに「定住・農耕」はこの寒冷化が起こったがゆえにはじまったようです。温暖化で氷が解けるのであれば、同じ現象が起らないと言えるのでしょうか？

私たちの暮らすまちは巨大化・複雑化することでその限界性能を高めてきました。高性能であることはある意味「強いまち」ですが、環境変化への継続的適応性が優れているかどうかはまた別問題です。存続し進化し続ける生物種とは「他に比べて強い」のではなく「適応性が高い」種であるのは進化論の原則ですが、私たちのまちはどうでしょうか。

これまでの社会の有形無形の蓄積を“サステナブル”展開していくだけでなく、少し異なった視点で見ておくこともこれからは大切に思います。そうすることによって、街のコンパクト化のありよう、都市のエネルギー供給システムのありようなどに多様性をもたらすことができ、それが柔軟な「環境適応型都市」に将来繋がっていくと考えます。少なくとも都市と食料供給の近接性、エネルギーの自律性などは、温暖化・寒冷化がどう転んでも重要な課題です。

わが国の人口の縮退や高齢化を考慮すると都市のコンパクト化は重要なテーマです。それゆえに特定のシステム(ハード・ソフト共に)に依拠しない柔軟で自立するまちづくりについて考える必要性がありそうです。1300年以上も続く伊勢神宮の式年遷宮は、「たても」だけの思想ではないのかもしれませんが。



(山村真司)

グリーンランドの氷床コアから得た最終氷期最盛期(LGM)までさかのぼる気候記録

南極大陸ヴォストーク基地の氷床コアから判明した、過去42万年間の気候変動

定期配信をご希望の方

定期配信を御希望の方は、下記メールアドレスまで。
(chihiro.kimura@nikken.co.jp 担当: 木村千博)

編集後記

ついにお掃除ロボットを買いました。自分で考え行動する姿はとてもかわいらしいものです。昔アニメで見たロボットとの共生が、身近に実現していることにびっくりします。(M)